

# FOMCは年内の利上げに向けた地ならしを進める

- 米連邦公開市場委員会(FOMC)は利上げを見送り、政策金利を0.25-0.50%で据え置く決定を下す。
- FOMC声明文は「利上げの条件は整ってきた」と言及し、年内の利上げに向けた地ならしを進める。
- FOMC参加者の金利見通しでは、年内0.25%の利上げの後も、2019年まで緩やかな利上げ継続の見方示される。
- 米国株は利上げ見送りを受けて落ち着きを取り戻す。今後は米大統領選挙や年末までの利上げの有無が焦点に。

## FOMCは利上げの見送りを決定

米連邦公開市場委員会(FOMC)は9月21日(現地時間)、フェデラル・ファンド(FF)金利の引き上げを見送り、FF金利誘導目標を0.25-0.50%で据え置く決定を下しました。投票メンバーのうち、イエレン議長含む7名が据え置きに賛成した一方、3名が0.25%の利上げに投票しました。

## FOMCは年内の利上げに向けて地ならしを進める

今回のFOMC声明文は「FF金利を引き上げる条件は整ってきたと判断している」と言及し、年内の利上げに向けた地ならしを進めました。実際、同日公表されたFOMC参加者の政策金利見通しでは、2016年末の予想中央値が0.625%となり、年内0.25%の利上げを見込むFOMC参加者が大勢を占めていることを示しています(図1)。

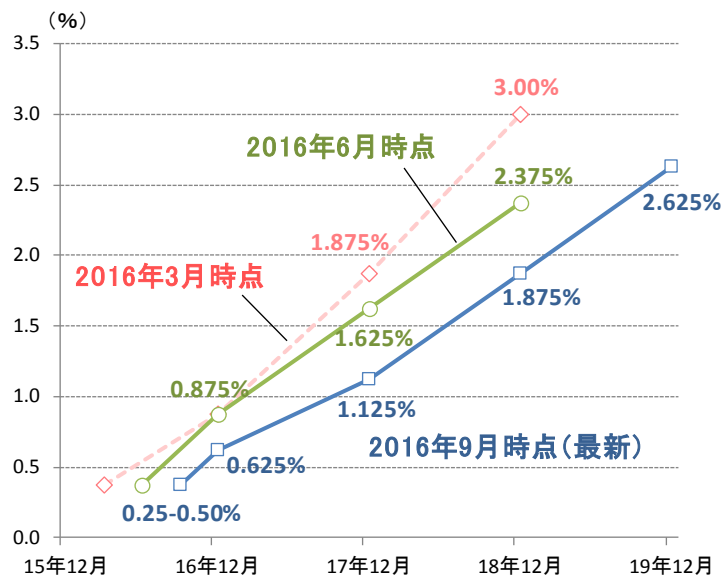
また、2017年以降の政策金利見通しに関しては、2016年6月時点と比べて利上げペースが小幅下方修正されているものの、緩やかな利上げ継続が依然としてFOMC内部でのコンセンサスとなっている模様です(2019年末の政策金利の予想中央値は2.625%)。今後は、雇用回復やインフレ改善などの面で一段の進展がみられるかが、FOMCによる利上げ判断のカギとなりそうです。

## 利上げ見送りを受けて米国株は落ち着きを取り戻す

9月中旬以降の米国株式市場は、米利上げを巡る不透明感などから軟調な地合いが続いてきましたが、FOMCでの利上げ見送りを受けて市場心理は落ち着きを取り戻し始めています(図2)。

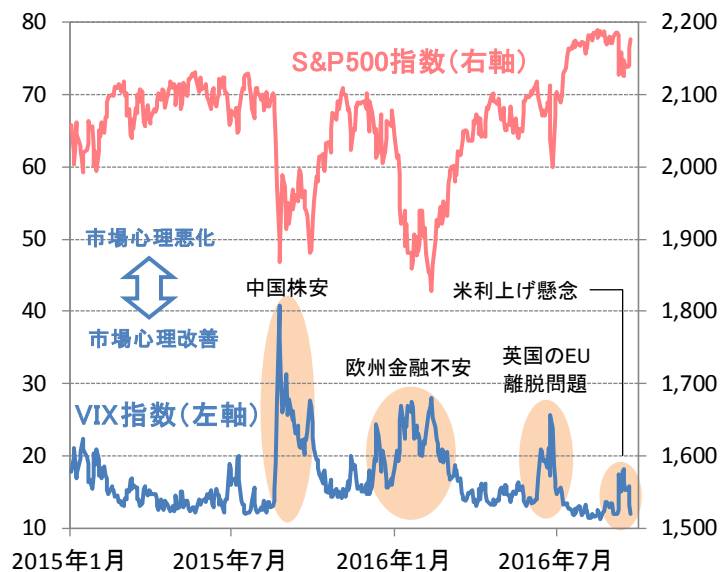
2016年の米国株式市場は、年初の欧州金融不安や6月の英国国民投票などのリスク要因を消化しながら、緩やかな上昇を維持してきました。10月以降は、米大統領選挙(11月8日)の動向や12月FOMCまでの利上げの有無が市場の焦点となると見込まれます。

図1:FOMC参加者の政策金利見通し(中央値)



(出所)米連邦準備制度理事会(FRB)

図2:S&P500指数とVIX指数



(出所)ブルームバーグ (期間)2015年1月1日~2016年9月22日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。